

## [ トピックス ]

# 令和7年度イネカメムシの発生状況と対策

イネカメムシ（写真1）は、稲を吸汁加害し、米が実らない不稔や黒い斑点のある斑点米を引き起こす害虫です（写真2）。

令和7（2025）年1～3月に実施した越冬状況調査では、県南部の多くの地点で本虫が確認されました。また、6月下旬から7月上旬に県南部に設置した乾式予察灯における誘殺数が多く、出穂期（7月下旬）の発生増加が予想されたため、[病害虫発生予察注意報（令和7年度3号 7月14日）](#)を発出して防除対策の周知を行いました（図1）。その結果、適切な防除が実施された地域では、8月以降の発生は平年並からやや少ない発生でした。

次年度に向けて、今後は本虫の越冬量調査を実施し、その結果に基づく発生予察情報を提供していく予定です。

引き続き適切な防除を実施し、本虫の発生を抑制していきましょう。



写真1 イネカメムシ



写真2 イネカメムシによる不稔（左）と斑点米（右）

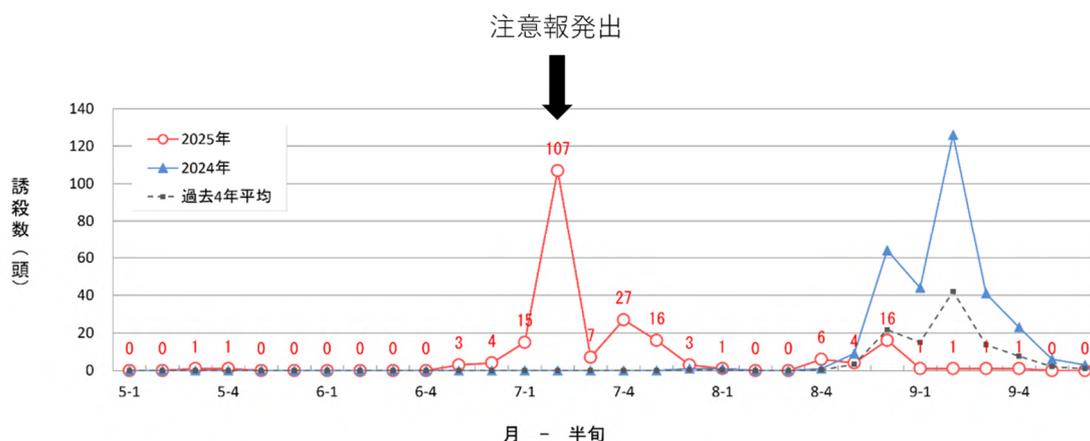


図1 イネカメムシの発生消長（小山市・60W 予察灯）

（環境技術指導部防除課）